

秋

あなたの子どもの発育状態を知るために学校で測るデータが3つある。身長と体重はすぐ思いつく。もう一つが座高である。そういえば、足が長いだけの胴長だのと友と騒いだ遠い記憶が残る。でも、いったい発育と何の関係があるのか、考えだすとさっぱり分からない。

▼結論をいえば関係はないらしい。関係がないのにとつて、たとえば、測定するよう法令が学校に義務づけているため、である。さすがに文部科学省の有識者会議が先日、「ほとんど役に立っていないのだから廃止すべきだ」という報告をまとめた。これを受けて、学校では早ければ再来年から座高の測定をやめるそうだ。

▼座高を測り始めたのは昭和12年。戦時体制下である。「胴体が長いと内臓が丈夫で、兵隊に向いていることが分かるから」という理屈だった。もっともきちんとした記録はなく、文科省も「そうだと言われていますが……」と頼りない。座高など測る国はほかにないそう、わずかな値の差にたいそうな意味などなからう。

▼座高の大義名分はもう「机や椅子の高さの調整に活用するため」に変わっている。発育に無関係ならさっさとやめればよかったのに、と思うが、存在理由をひねり出す知恵者がいたのだろう。実際には机や椅子の高さを座高にあわせるきめ細やかな学校はまずないという。無用の惰性かくもしぶとい、と知るばかりである。